

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.222 2019.5.1

山辺学校、リニューアルオープン。



旧山辺学校校舎が、4月27日（土）にリニューアルオープンしました。「昔の教育」や「明治の校舎」など様々なテーマを紹介します。この機会にぜひ山辺学校にお出かけください。

もくじ

- 誌上博物館 ◇ 旧昭和工業製糸場ー信州の発展を担った製糸工場の姿ー……………2
- 博物館TOPICS ◇ 学都松本ミュージアムめぐり 2019 / 松本城下町ジオラマプロジェクト ……3
 - ◇ ひとの動き……………4
- ガイドコーナー ◇ はんでんぼく……………4

美しく生きる。
健康寿命延伸都市・松本

旧昭和興業製糸場—信州の発展を担った製糸工場の姿—

はじめに

国の文化審議会は、平成31年3月18日（月）に開催された同審議会文化財分科会の審議・決議を経て、歴史の里にある旧昭和興業製糸場を含む153件の建造物を新たに国の登録有形文化財（建造物）※1に登録するよう文部科学大臣に答申を行いました。

後日に行われる官報告示をもって正式な登録となりますが、松本市内で51件目の登録有形文化財として旧昭和興業製糸場が登録される予定です。

旧昭和興業製糸場の特徴・評価

旧昭和興業製糸場は、蚕の繭から糸をとる製糸工場です。大正14年（1925）、下諏訪町に建設され、何度かの経営者の変遷を経ながら、平成7年（1995）まで操業が続けられていました。工場閉鎖の翌年、工場で使用されていた設備・機械類とともに現在地に移築復元され、現在に至っています。



旧昭和興業製糸場 外観

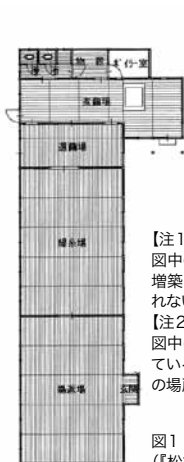
建物は、蒸気を逃がし換気をするため工場の棟全体に通した越屋根や、採光のため腰高に連続して設けられたガラス窓など、全体として建築当初の姿が良く保たれ、製糸のための工場としての典型的な形式を伝えていることが評価されました。

製糸場で行われていた作業

旧昭和興業製糸場では操業当時、どのような作業が行われていたのでしょうか。

主な作業は、原料となる繭の買い付け→繭の乾燥・保管→選繭（糸を取るための繭を選ぶ）→煮繭（繭を煮て糸を取りやすくする）→繰糸（繭から糸を取る）→揚げ返し（糸を乾燥させながら巻き直す）→品質検査・束装・出荷 という流れで進められました。

図1は、移築された旧昭和興業製糸場工場棟の平面図です。繭の買い付け、乾燥・保管、選繭という工程に続く、煮繭、繰糸、揚げ返し（再繰）という一連の作業を行っていた部屋が連続して配置されていることがお分かりいただけます。



- 【注1】
図中のボイラー室は現在地への移築時に増築したもので、今回の登録範囲には含まれない。
- 【注2】
図中には煮繭場の隣に「選繭場」が記されているが、工場操業時には工場棟とは別の場所に選繭場があった。

図1 旧昭和興業製糸場 平面図
（『松本市歴史の里整備事業報告書』より）

います。こうした製糸業の流れを、実際に使われていた道具を見ながら知ることができる点も旧昭和興業製糸場の価値の一つです。

「座繰工場」という呼び名

旧昭和興業製糸場は「座繰工場」と呼ばれることがあります。この「座繰」とは何を指しているのでしょうか。

蚕の繭から糸を取る方法は、時代とともに変化してきました。まず、「手挽き」や「座繰り」と呼ばれる人力で糸を巻き取るための糸枠を回す手法が用いられ、次第に水力や蒸気機関、電力によって複数の糸枠を同時に回して糸を取る機械が導入されるようになります。動力を用いて動かし、作業者が座った状態で糸を取る繰糸機械を「座繰機（座繰式繰糸機）」と呼びます。旧昭和興業製糸場で使われていたのは、この座繰機です。



上州式座繰り器（歴史の里蔵）



旧昭和興業製糸場 座繰式繰糸機

時代が下ると、より効率良く糸を取るため、一人の作業員がより多くの糸を取れる「多条機（多条繰糸機）」が普及します。多条機は、作業員が立って作業をすることから、「立繰機（立繰式繰糸機）」と呼ばれます。

旧昭和興業製糸場の呼称として使われることのあつた「座繰工場」は、工場で使っていた機械（器械）の種類ではなく、立繰式の繰糸機に対し「機械の前に座って糸を繰り取る」という工場での作業の様子を表した通称です。

昭和30年代に自動繰糸機が実用化されると、座繰式の繰糸機は姿を消していきました。そのような状況の中、平成に入っても座繰式繰糸機を使っていた昭和興業製糸場は、数少ない貴重な工場でした。また、「座繰工場」の建物と設備・機械類が一体的に保存活用されている事例は決して多くありません。

ぜひ、旧昭和興業製糸場をご覧いただき、長野県の発展を担った製糸業の姿を感じていただければと思います。

（歴史の里 学芸員／八木瑞希）

※1 原則として建築後50年を経過した歴史的建造物のうち、一定の評価を得たものを文化財として「文化財登録原簿」に登録し、緩やかな規制を通じて保存を図り活用を促すことで、文化財建造物を後世に継承していくために作られた制度です。

旧制高等学校記念館 Tel.0263-35-6226

学都松本ミュージアムめぐり2019

「学都松本」の重要な要素として、日本で最も古い小学校の一つとされる旧開智学校の開校や、松本高等学校の誘致が挙げられます。そこで、重要文化財旧開智学校校舎と旧制高等学校記念館に、4月にリニューアルオープンした旧山辺学校校舎を加えた3施設で、教育に関する企画展を実施します。

企画展は旧山辺学校校舎から始まり、重要文化財旧開智学校校舎、旧制高等学校記念館の順に開催します。旧山辺学校校舎は、企画展「懐かしの校舎展」を開催し、郷愁を誘う木造校舎など懐かしい校舎の写真を展示し、学校建築の多様性とその魅力を紹介します。また、重要文化財旧開智学校は、企画展「教育からみる開智学校と山辺学校、松本高等学校」を開催し、3校の教育の様子や特徴を、比較を交えながら紹介します。そして、旧制高等学校記念館では、企画展「松本高等学校開校100年記念展」を開催し、松本高等学校開校100年にちなんで、松本高等学校の歴史及び、同時期に開校した新潟・山口・松山高等学校の歴史を紹介します。

先に述べた企画展に加え、4月27日(土)から12月22日(日)までの期間中は、観覧料の割引とスタンプラリーを行います。観覧料の割引については、参加館いずれかの観覧券半券を、他の参加館の受付にて提示した場合、観覧料が団体料金になります。スタ

ンプラリーについては、参加館の常設展示か特別展示をご覧いただいた場合にそれぞれの館でスタンプを押印し、参加館全てのスタンプを集めると、記念品を贈呈します。スタンプ用紙は参加館の受付にございますので、お気軽にご参加ください。

この機会にぜひ、「学都松本」に関する施設である旧山辺学校校舎、重要文化財旧開智学校校舎、旧制高等学校記念館にお越しいただき、先人たちが残した思いや財産に触れてください。

(旧制高等学校記念館 学芸員 / 石原花梨)

旧山辺学校校舎企画展「懐かしの校舎展」

会 期 4月27日(土)～6月30日(日)
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日…月曜日(祝日の場合は翌日休館)
料 金 通常観覧料(大人200円、小人無料)
問合せ 教育文化センターへ(電話:0263-32-7600)



旧山辺学校校舎

重要文化財旧開智学校校舎企画展
「教育からみる開智学校と山辺学校、松本高等学校」

会 期 6月29日(土)～8月25日(日)
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日…7月16日(火)のみ休館
料 金 通常観覧料(大人300円、小人150円)
問合せ 重要文化財旧開智学校校舎へ(電話:0263-32-5725)



重要文化財旧開智学校校舎

旧制高等学校記念館企画展
「松本高等学校開校100年記念展」

会 期 8月3日(土)～12月22日(日)
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日…月曜日(祝日の場合は翌日休館)
※9月17日(火)～24日(火)、11月5日(火)～11日(月)は
展示替えのため休館
料 金 無料(常設展は通常観覧料)
問合せ 旧制高等学校記念館へ(電話:0263-35-6226)



旧制高等学校記念館

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

松本城下町ジオラマプロジェクト～みなさんの資料をお寄せください～

松本市立博物館では、2023年開館予定の新博物館で展示する「松本城下町ジオラマ」を新たに製作するプロジェクトを進めています。このプロジェクトは、市民のみなさんが持っている写真や絵図などの資料や情報を博物館にお寄せいただくことで、みなさんとともに進めていくものです。



江戸時代の武家屋敷 高橋家住宅



江戸時代の城下町 『善光寺道名所図会』

現在の松本城下町は、ほとんどが明治時代の大火後の建物であり江戸時代の姿を留めていません。そこで、江戸時代の武家屋敷や町屋を復元し、松本城と城下町の全体を再現した城下町ジオラマを新たに製作します。募集する資料は次のとおりです。

- ・明治時代初期の城下町の建物が撮影された写真や絵図
 - ・江戸時代の城下町の建物の建築図面
 - ・江戸時代の建物が残されているという情報
- まずはお気軽にご連絡ください。

(松本市立博物館 基幹博物館建設担当 / 千賀康孝)



ひとの動き

4月1日付で、次のように職員の転入・転出等がありました。()内は所属。

転入・新規採用 よろしくお願ひします。

課長補佐 朝倉 一樹 (里山辺地区地域づくりセンター→旧制高等学校)
主査 赤羽 浩行 (芳川地区地域づくりセンター→基幹博物館建設担当)
主任 一ノ瀬幸治 (組合書記局→考古博物館)
主任 宮澤 良知 (市民税課→旧制高等学校)
事務員 武井 成実 (はかり資料館→新規採用 市立博物館)
嘱託 内藤眞由美 (基幹博物館建設担当)
嘱託 川上由紀子 (旧開智学校)
嘱託 上條 直利 (四賀小学校→旧山辺学校校舎)
嘱託 河内 正弘 (納税課→考古博物館)

転出・退職 お世話になりました。

課長補佐 船坂 義明 (市立博物館→松本城管理事務所)
係長 中村 高俊 (旧制高等学校記念館→退職)
主査 赤羽 裕幸 (市立博物館→生活保護課)
主事 高山 直樹 (市立博物館→農政課)
嘱託 塚原 有香 (市立博物館→新規採用 地域づくり課)
嘱託 鳥山 夏味 (市立博物館→保育課)
嘱託 横山 泰基 (考古博物館→退職)
嘱託 麻和 孝安 (四賀化石館→退職)
嘱託 花村 圭介 (考古博物館→退職)
嘱託 水上 栄次 (旧制高等学校→退職)

課内異動 改めてお願ひします。

係長 三木 章平 (主査→基幹博物館建設担当係長)
主事 小暮 洋介 (窪田空穂記念館→市立博物館)
嘱託 高山 峻一 (市立博物館)
嘱託 西村 奈美 (考古博物館→松本民芸館)
嘱託 永井三香子 (松本民芸館→旧山辺学校)
嘱託 長岡 春奈 (山と自然博物館→旧山辺学校)
嘱託 岩岡 秀行 (山と自然博物館→四賀化石館)
嘱託 遠山 順子 (旧開智学校→はかり資料館)
嘱託 中田 栞 (旧制高等学校)
嘱託 神田智代美 (市立博物館→窪田空穂記念館)

ガイドコーナー はんでんぼく

市立博物館から ☎0263-32-0133

第8期市民学芸員養成講座

博物館と共に地域の文化財に対する学習・調査や、博物館の普及公開活動を行っていただける人材を募集します。養成講座では、松本の文化・歴史について自分で学び、人に伝えるための実習を行います。5月に初回の講座を実施します。なお、講演に関しましては養成講座参加者以外の方も聴講可能です。

日時 初回講座：5月25日(土)
午前10時30分～午後3時30分
会場 松本市立博物館2階講堂
定員 15人
料金 1,800円(資料代200円×9回、各回実施時に200円徴収)
内容 午前：オリエンテーション
午後：基調講演「琵琶湖博物館のはしかけ制度について」
講師 大塚泰介氏/滋賀県立琵琶湖博物館学芸員
その他 今後の予定：6月22日、7月20日、10月5日、11月9日、12月14日、1月18日、2月22日、3月7日の土曜日
申込み 電話で市立博物館へ
※5月7日(火)午前9時から受付開始

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

お茶席の会

日時 5月12日(日)：松風の会/表千家
6月30日(日)：おしゃれ茶道の会/裏千家
いずれも午前10時～正午
会場 重要文化財馬場家住宅
料金 通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)

はた織り体験教室

日時 5月18日(土)、6月15日(土)
いずれも午前9時30分～午前11時30分、午後1時30分～3時30分の1日2講座
会場 重要文化財馬場家住宅
料金 1,000円
対象 小学校高学年以上
定員 午前、午後とも各4名
講師 染織の会
申込み 各月5日から電話で馬場家住宅へ

時計博物館から ☎0263-36-0969

時の記念日企画展「わが家のお宝時計展Ⅴ」

6月10日の時の記念日にちなみ、ご家庭で大切にされてきた時計を募集し、思い出のエピソードとともに展示します。

会期 5月18日(土)～6月16日(日)
月曜休館、休日の場合はその翌日
時の記念日の6月10日(月)は臨時開館
会場 時計博物館 3階企画展示室
料金 通常観覧料(大人300円、小中学生150円)

時の記念日企画「古時計説明会」

学芸員による企画展の展示解説と、時計技師による仕掛け時計の実演説明を行います。

日時 6月8日(土)、9日(日)
①午前11時20分
②午後2時20分(約20分)
会場 時計博物館 3階企画展示室
定員 各回20名程度
料金 通常観覧料(大人300円、小中学生150円)

歴史の里から ☎0263-47-4515

①草木染め体験講座
②はた織り体験講座
③親子はた織り体験講座

①シルクのストールをヨモギで染めます。
②③はた織り機を使って裂き織りの作品を作ります。

日時 ①5月12日(日) 午前9時30分～正午
②5月22日(水) 午前10時～正午、午後1時～3時
③6月22日(土) 午前10時～正午、午後1時～3時

会場 歴史の里
料金 ①2,000円、②1,000円、③1組1,000円
対象 ①②大人、③小学生以上の親子
定員 ①10人、②各5人、③各5組
講師 ①歴史の里 染めの会、②③川上裕子氏
申込み 電話で歴史の里へ
※3事業共通:開催月の5日前9時から受付開始

松本民芸館から ☎0263-33-1569

緑陰「用の美」市

民芸館の中庭で、みずぎ細工、染織品、布ぞうり、小木工などの作品を展示販売します。

日時 5月25日(土)～5月26日(日)
午前9時～午後5時(最終日は午後4時まで)
※5月27日(月)は臨時開館
会場 松本民芸館
問合せ 電話で松本民芸館へ

座談会「丸山太郎と民芸の仲間たち」

「丸山太郎を囲む民芸を愛する仲間たちの会」のメンバーから、当時の活動や太郎の「美」についてお話をうかがいます。

日時 6月9日(日) 午後1時30分から午後3時
会場 松本民芸館
料金 通常観覧料(大人300円、中学生以下・70歳以上の松本市民無料)
定員 30名(要予約)
対談者 林新一郎氏/前岡谷市市長
洪谷栄一氏
張 洛善氏
共催 長野県民芸協会
申込み 電話で松本民芸館へ
※5月5日前9時から受付開始

はかり資料館から ☎0263-36-1191

企画展「中町と民芸」

松本・中町は民芸と深い結びつきがあります。中町出身の民芸作家であり、松本民芸館の創館者である丸山太郎と、丸山と共に松本の民芸運動の中心人物であった染色工芸家・三代澤本寿の作品を展示します。中町ゆかりの民芸品のやさしい温もりに触れてみてください。

会期 4月24日(水)～5月31日(金)
会場 松本市はかり資料館
料金 通常観覧料(大人200円、中学生以下無料)

あとがき

5月1日に元号が平成から令和へと改元されました。世の中が新たな時代へ変化していく中、博物館も変わっていく時代に合わせ変化していけるように、博物館の職員として頑張っていきたいと思いました。

(T・H)

あなたと博物館 No.222

発行年月日/令和元年5月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL : <http://www.matsuo-haku.com>
e-mail : mcmuse@city.matsumoto.lg.jp



印刷 川越印刷株式会社